

牛朱別川は、この川のひとつに鹿の足跡が多い川なので、ウシシバツ

(usis-pet 蹄)の命名された。

その牛朱別川での鹿猟に関するアイヌ語地名は、地図①に見えるオヨクウシである。オヨコウシイ (Oyokousi) などで鹿の群れを待ち伏せて狙い射つのが常である場所の意味である。オヨクウシの山裾を牛朱別川が流れていて、山裾と川の間、鹿の群れがいつも通る道があり、そこで鹿を待ち伏せし、弓で射るのである。鹿猟の絶好の場所であったので名付けられた地名である。

動物学者の犬飼哲夫は『北方動物誌』で、石狩十勝方面の鹿が、十勝平原に往来する移動ルートに次のように書いている。「十勝野への移動ルートの一つは、中央山系の一帯低い鞍

—牛朱別川のアイヌ語名(中)—

部すなわち標高千以上のトムラウシ山とオプタアシケ山の間を越えた。大正時代までこの方面の人達はこの鞍部をシカ越えと呼んでいたが、今ではその名も忘れられてしまった。ところが、現場に行ってみると、ハイ松やクマササの間、幅一ぱほのトンクリートで固めたようなシカ道が残っている。一帯在した鹿道の貴重な記録である。十勝の研究者の安田巖は、右のこの鹿道を、石狩と十勝を結ぶアイヌの人たちの交通路のひとつにあげている。また、狩勝峠も元来は鹿道のルートが交通路になったものである。

このように、鹿の集団移動による鹿道ができ、上川ではこの牛朱別川のオヨクウシの他に、辺別川・愛別川・石狩川筋に、鹿猟のヨコウシ地名が残されている。

地図①は、明治三十一年製版の『北海道複製五万分一図』で、ご覧のように、河川名は、ほとんどがアイヌ語で書かれている。地図②は、大正



牛朱別川の流れて、崖が形成されていたのであろう。地図②では、一七一峰の射的山の名称となっている。

射の山の名称由来は、明治二十四年に入地した永山屯田兵が、この山の北の裾に射の場を設け、冬期間に射撃訓練したことにより名付けられたもの。射的山からは石刃などの狩猟用の石器が出土し、先石器時代の遺跡として、射的山遺跡の名称で、全国的に知られていた。最近では、庭園から射の山にも登れる「上野ファーム」が、旭川の観光名所として、全国から観光客が訪れている。

射の山の山裾を流れる川が、ヌポコマナイトヌブ・ポク・オマ・ナイ (nup-pok-oma-nay 野原・下にある・川) で、平坦地を流れる川の意味で、地図②では当麻町から流れる神水川となっている。

前回は、牛朱別川の旭川市街地の川口部の改修を紹介したが、三角山と射の山の間から、洪水対策用の牛朱別川分水路(人工河川)「幅約二百、長さ約五・七キロ」に及ぶ「永山新川」ができ、直接石狩川に合流させている。アイヌ語地名研究会

※毎月第一週号に掲載します

断章 旭川のアイヌ語地名研究 36 高橋 基